

キーワードを入力

トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

特集

意識調査

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT・科学 | ライフ | 地域

北海道・東北 | 関東 | 信越・北陸 | 東海 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄

海の酸性化、ハマサンゴに悪影響 喜界島の沿岸部 合同研究チームが論文

9/25(月) 13:00配信



海洋の酸性化で骨格形成への悪影響が懸念されるハマサンゴ=喜界町荒木沖 (資料写真)

東京大学や国内の海洋、気象に関する研究団体などで組織する合同チームはこのほど、大気中の二酸化炭素（CO2）濃度上昇に伴う海洋の酸性化進行で、喜界島の沿岸部などに生息するハマサンゴの骨格形成に悪影響が生じ始めている可能性があるとの論文をまとめた。サンゴが骨格を作るために必要な弱アルカリ性の体内環境を維持するのが困難になっているという。

論文をまとめたのは、東京大学大気海洋研究所と海洋研究開発機構、気象庁気象研究所、産業技術総合研究所の合同研究チーム。英科学誌サイエンティフィック・リポートに掲載された。国内の小笠原諸島の父島と喜界島でハマサンゴの骨格を採取し、炭素やホウ素の同位体を分析した。

喜界町での調査は2009年秋に実施。荒木沖で432年前から生息するハマサンゴの骨格を採取し、コアの分析調査を行った。

サンゴ礁をつくるハマサンゴなどの造礁サンゴをめぐるっては、海水温の上昇に伴い体内に共生して光合成する藻類「褐虫藻」が抜け、白くなって死滅する白化現象が沖縄などで深刻化している。研究チームは、CO2濃度の上昇で、造礁サンゴが温暖化による海水温上昇と海洋酸性化の二重の打撃を受けているとの見方を示した。

ハマサンゴはこれまで、造礁サンゴの中では海洋酸性化など環境ストレスへの耐性が高いとみられていた。研究チームは「今回の結果を踏まえ、耐性が低い他種のサンゴはより大きな影響を受けている可能性がある」とした。ハマサンゴ以外のサンゴについても骨格形成への影響を調べる必要があるという。

調査に参加した海洋研究開発機構高知コア研究所の窪田薫特別研究員（30）は今後の展望について「他地域のハマサンゴについても同様の調査を行うことになるのではないかと話した。

奄美の南海日日新聞



最終更新:9/25(月) 13:00

南海日日新聞